

第3会場● 4F 視聴覚室

■司 会／井上 雅晴 熊本県教育庁教育総務局 社会教育課 社会教育主事
一ノ瀬輝陽 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

1

地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会5年の歩みと思想

10:50~11:20

矢野 修(大分県国東市) 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会運営委員会 委員
大分県立社会教育総合センター 社会教育主事

大分県教委と「東国東地域デザイン会議」の「協働」発想によって始まった事業である。平成の大合併以降、公的・社会教育の衰退傾向の中で、地域づくりは「官から民へ」の時代に入ったと認識し、民のエネルギー・発想を開発し、発表と交流の場を設定してネットワークを築き、標記の通り、参加者が活力を醸成し、地域に持ち帰り、次世代に引き継ぐ地域づくりを発展・継承し、子どもや高齢者はもとより地域産業の振興による安心なまちづくりを目指している。自らの工夫と企画を「デザイン」と表現し、意識的に新しい発想、地域の個性、グループやサークルの独自性を重視し、如何にデザインを実践に移行させるかを会の主要目的としている。孤高の哲学者三浦梅園を記念する「梅園の里」を拠点として、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットやNPO法人幼老共生まちづくり支援協会等の応援も得て、1泊2日の実践交流会を開催し、5年目(第5回)の大会を終えたところである。

2

アウトリーチ型家庭教育・子育て支援相談事業

11:25~11:55

松林 廣美(長崎県長崎市) 橋戸石地区民生委員児童委員協議会 民生委員・主任児童委員

平成21年度以来、長崎県子ども未来課の委託を受け、10人で構成する相談員グループが小学校区内の子育て応援隊として訪問型の相談事業を展開している。個別家庭への訪問に加えて、主たる活動場所は保育園、放課後児童クラブ、地域のお遊び教室などで、1年を通して随時要請に対応し、月1回程度の定例会で連絡・調整を図っている。予算は国の「安心子ども基金」を活用し、学校や地域の協力を得て広報誌上で活動の周知を図り、併せて個別にチラシも配付している。関係者のネットワークが徐々に形成され、地域における本事業の認知度も高まっている。プライバシーの徹底保護、専門相談機関との連携、他地域への活動の普及などが次なる課題である。

3

伝統的豆腐づくり「あたいぐわープロジェクト」が生み出す

コミュニティの活力と学校支援活動の活性化

12:00~12:30

南 信乃介(沖縄県那覇市) 那覇市立繁多川公民館 リーダー

「あたいぐわープロジェクト」は地域歴史の「聞き取り」講座から生まれ、「家庭菜園(あたいぐわ)」での大豆生産を復活し、地域に伝わる伝統的豆腐づくりを中心としたまちづくりの手法である。評判の高い在来大豆「青ヒグ」を農事試験場から分けてもらい、地域住民が「あたいぐわ」を再生して、種まきから豆腐づくりまでを手がける中で、近隣小・中・高校との連携も始まった。小学校の総合的学習への参入も実現し、公民館の「すぐりむん認定」(すぐれた人材発掘)を活用して学校支援事業が活性化した。住民自身が行なう「菜園」管理の手法は、人々の主体性を育み、地域文化を共有する中で自治会主催の地域イベントも実現し、コミュニティの絆と誇りを創り出していった。当プロジェクトについては平成23年以来実行委員会方式を導入し、学校との連携は公民館がコーディネート機能を介している。